

令和7年度第1回放送番組審議会

■開催日時

令和7年9月25日（木）15:00～17:00

■開催場所

WEB会議

■出席委員（7名）

放送番組審議委員会会長	景山 陽一
放送番組審議委員	服部 洋之
	時田 修
	三富 章恵
	加藤 光平
	小川 颯
	伊藤 かすみ
	（順不同・敬称略）

■事務局出席者

代表取締役社長	末廣 健二
取締役兼コーポレート本部長	佐々木 祐人
テクニカルクリエイイト本部長	安保 達成
テクニカルクリエイイト本部マネージャー	斉藤 洋樹
テクニカルクリエイイト本部サブマネージャー	三浦 明之
コーポレート本部	奈良 亜湖
コーポレート本部	原田 侑奈
コーポレート本部	佐々木 眞呼

■議事 事務局からの報告事項/自主放送番組についてのご意見

■視聴課題番組

番組名
空白 ～彼はいかに戦争協力し、どう後悔したか～

■ご意見まとめ

番組は戦争・戦後から「今」を見つめるというテーマ性が伝わる一方、構成の繋がりや主軸の統一に課題。また紙芝居部分の尺や、ナレーションの変更も違和感があった。しかし、藤田氏の日記や「後悔」の言葉、取材者の視点による総括は好評。今後は、若い世代の視聴者へのアプローチと、書籍化や学校上映など多角的なコンテンツ展開を期待する意見が多く上がった。

■放送番組審議委員会からのご意見（詳細）

（番組構成について）

- ・全体の流れにつながりが無く、藤田瑩山と国策紙芝居の二本柱に見えてしまっており主となるテーマが分かりにくい。伝えたいことは何かをシンプルにまとめた上で、複雑な内容を分かりやすく伝える工夫が必要。（最後に要約を入れるなど）
- ・取材者の西村氏を前面に出し、取材・制作が表裏一体となる構成もよいのではないか。
- ・紙芝居部分が7分間となっており、引き込まれたが長く感じた。

（ナレーションについて）

- ・終盤でナレーションが男性（本間氏）に変わったことに違和感がある。最後は主役に近い西村氏が感想や想いを語る形式での着地を期待していた。
- ・「AI」によるナレーションが、さらに意図した話し方となるように試行錯誤すべき。

（今後の配信方法/映像利用方法について）

- ・番組で得た取材をもとに、書籍化や有料イベント、学校での上映など、放送以外へのコンテンツ展開の可能性はある。
- ・ダイジェストや予告編の作成や様々なメディアを活用して、多くの人に届けるのか課題。

（番組の中身について）

- ・「飛行機を見て、お父さんまだ？」という子どものシーンや「新しい戦前、今が戦前にならないように」との言葉が鮮烈だった。
- ・名誉教授の目を通して、戦争を知らない世代の視点を取り入れているのが、視聴者が身近に感じられよい。
- ・戦後の活動（二面性）に着目するのは、戦争を理解する上で効果的。
- ・藤田の日記を紹介できたのはドキュメンタリーの肝だと感じた。
- ・取材場所が神奈川や東京など県外にも及び、他の土地に暮らす人の資料があった事が深みを増している。
- ・「戦後80年」のメッセージ性を感じさせる作品。事実を淡々と描いている点がよかった。
- ・藤田瑩山を通して、戦争、戦後、今を見つめるという狙いと、若い世代にも身近に感じてもらいたいという思いが伝わってきた。
- ・取材者の目を通しての最後の総括は、次の世代へつないでいくというメッセージ性を感じさせ、構成としてよかった。
- ・戦争体験者が辛かったという美化された話が多い中で、藤田が「後悔している」とはっきり語る切り口が新鮮。
- ・戦争という重いテーマのため気軽には見えず、若い学生など、戦争を知らない世代が入り込みにくい部分があるのではないか。